

Japanese Utility Model Unexamined Publication No. Hei.5-23527

Inventor : Yoshinobu TSUCHIYA

Inventor : Masaru SAKAI

Inventor : Tomonori OGASAWARA

Application No. : Hei.3-79914

Date of filing : September 6, 1991

Applicant : ISUZU MOTORS LIMITED

Unexamined Publication Date: March 26, 1993

TITLE: HIGH-VOLTAGE ELECTRIC DOUBEL-LAYER CAPACITOR APPARATUS

Abstract

Object: To prevent electric power from being wastefully consumed for the purpose of balancing voltage in a high-voltage electric double-layer capacitor apparatus composed of a plurality of electric double-layer capacitors which are connected in series.

Configuration: A current control means, which is formed, for instance, of serially connected resistors and control transistors, is connected in parallel, if needed, to each of the electric double-layer capacitors which form a high-pressure electric double-layer capacitor apparatus. The voltage across opposite terminals of the electric double-layer capacitors is monitored and the current control means is made conductive to control a bypass current only in the case the voltage exceeds a set

value. With such a construction, the period of time during which the current flows to the current control means becomes shorter. Also, since the current does not flow to all the current control means, leakage of current that flows to the high-voltage electric double-layer capacitor apparatus is reduced, leading to lower calorific power, and thereby preventing wasteful consumption of electric power.

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開実用新案公報(U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平5-23527

(43)公開日 平成5年(1993)3月26日

(51)Int.Cl.⁵

H01G 9/00

9/14

識別記号

301

庁内整理番号

7924-5E

Z 7924-5E

FI

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1(全3頁)

(21)出願番号 実願平3-79914

(22)出願日 平成3年(1991)9月6日

(71)出願人 000000170

いすゞ自動車株式会社

東京都品川区南大井6丁目26番1号

(72)考案者 土屋 善信

藤沢市土棚8番地 いすゞ自動車株式会社

藤沢工場内

(72)考案者 坂井 勝

藤沢市土棚8番地 いすゞ自動車株式会社

藤沢工場内

(72)考案者 小笠原 智則

藤沢市土棚8番地 いすゞ自動車株式会社

藤沢工場内

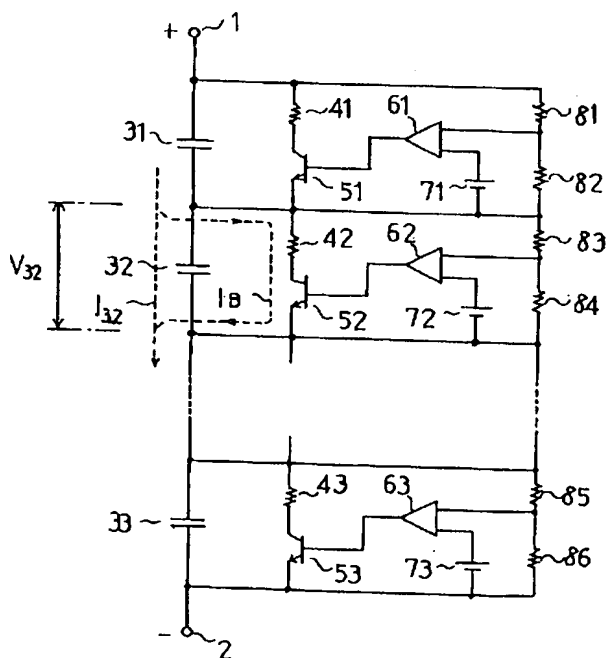
(74)代理人 弁理士 本庄 富雄

(54)【考案の名称】 高耐圧電気2重層コンデンサ装置

(57)【要約】

【目的】 複数個の電気2重層コンデンサを直列接続して構成した高耐圧電気2重層コンデンサ装置において、電圧バランスを取るために電力を無駄に消費しないようにすること。

【構成】 高耐圧電気2重層コンデンサ装置を構成する各々の電気2重層コンデンサに、例えば抵抗と制御トランジスタとの直列回路から成る電流制御手段を、必要に応じて並列接続する。そして、電気2重層コンデンサの両端電圧を監視していて、設定値を超えた場合にのみ前記電流制御手段を導通させてバイパス電流を制御する。このようにすると、電流制御手段に電流が流れる期間が少なくなると共に、全ての電流制御手段に流れるわけでもないので、高耐圧電気2重層コンデンサ装置全体に流れる漏れ電流が少なくなると共に、発熱量も小となり、電力を無駄に消費することがない。



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】 直列接続された複数の電気 2 重層コンデンサと、各電気 2 重層コンデンサに並列接続された電流制御手段と、各電気 2 重層コンデンサの両端電圧を設定電圧と比較する電圧比較手段とを具え、該電圧比較手段からの出力により前記電流制御手段を制御して各電気 2 重層コンデンサの充電電圧のバランスを取ることを特徴とする高耐圧電気 2 重層コンデンサ装置。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本考案の実施例にかかわる高耐圧電気 2 重層コンデンサ装置

【図 2】 コンデンサの等価回路を説明する図

【図 3】 従来の高耐圧コンデンサ装置を示す図

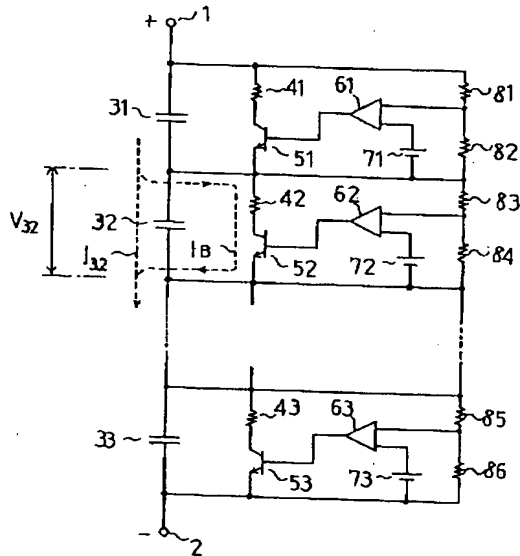
【図 4】 直列接続した電気 2 重層コンデンサにおける各

充電電圧を説明する図

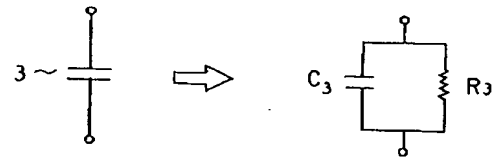
【符号の説明】

- 1, 2 端子
 3 コンデンサ
 4 ブリーダ抵抗
 5 定電圧ダイオード
 6 直流電源
 7 スイッチ
 31~34 電気 2 重層コンデンサ
 41~43 抵抗
 51~53 制御トランジスタ
 61~63 比較器
 71~73 基準電源
 81~86 分圧抵抗

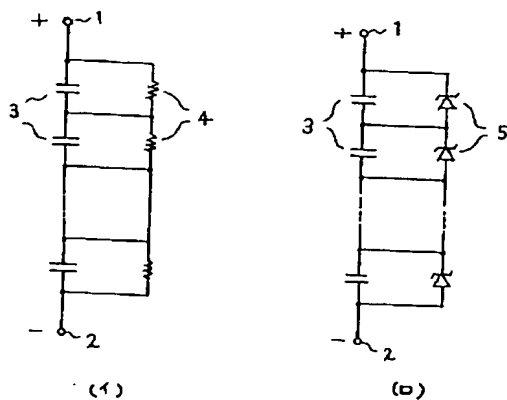
【図 1】



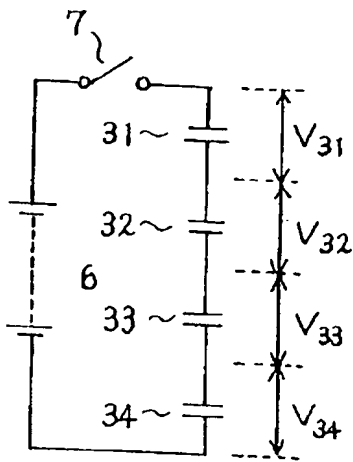
【図 2】



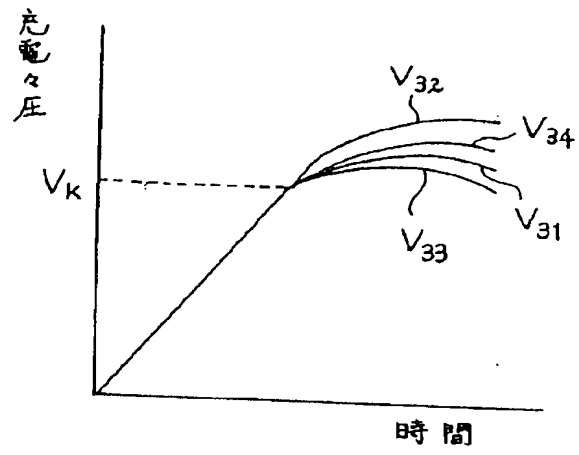
【図 3】



【図4】



(1)



(2)

【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

本考案は、複数個の電気2重層コンデンサを直列接続して構成した高耐圧電気2重層コンデンサ装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

高耐圧のコンデンサ装置を得たい場合、低耐圧のコンデンサを複数個直列接続することが行われている。図2に示すように、一般にコンデンサ3を等価回路で表すと、静電容量 C_3 と等価並列抵抗 R_3 との並列接続体となっているが、同一規格のコンデンサを使用したとしても、 C_3 や R_3 の値には微妙なバラツキがある。そのため、複数個直列接続した場合、各コンデンサにかかる電圧（即ち、各コンデンサの充電電圧）にバラツキが生じ、特定のコンデンサに過大な電圧がかかってしまうというような事態が生じる。そこで、高耐圧コンデンサ装置を構成する場合には、各コンデンサの電圧にバラツキが生じないように、次に述べるような手段が講じられている。

【0003】

図3は、従来の高耐圧コンデンサ装置を示す図である。図3において、1、2は端子、3はコンデンサ、4はブリーダ抵抗、5は定電圧ダイオードである。図3（イ）は、直列接続したコンデンサ3に、それぞれブリーダ抵抗4を接続したものである。各コンデンサ3にかかる電圧は、ブリーダ抵抗4に依存して定まるようにすることが出来るので、それにより電圧のバラツキを防ぐことが出来る。図3（ロ）も、コンデンサ3にかかる電圧は、並列に接続された定電圧ダイオード5により決まるから、やはり電圧のバラツキを防ぐことが出来る。

【0004】

ところで、近年、小型で大容量のコンデンサとして電気2重層コンデンサが注目されているが、これには耐電圧が小という欠点がある。従って、高耐圧のコンデンサ装置として利用するためには、どうしても複数個の電気2重層コンデンサを直列接続して使用せざるを得ない。そのため、図3に示したような構成にして

、高耐圧電気2重層コンデンサ装置とすることが行われている。

【0005】

【考案が解決しようとする課題】

しかしながら、前記した従来の高耐圧電気2重層コンデンサ装置では、全てのブリーダ抵抗4あるいは定電圧ダイオード5に常時電流が流されているので、コンデンサ装置全体に流れる漏れ電流が大であると共に、ブリーダ抵抗4等での発熱が大きく、電力を無駄に消費しているという問題点があった。本考案は、このような問題点を解決することを課題とするものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】

前記課題を解決するため、本考案の高耐圧電気2重層コンデンサ装置では、直列接続された複数個の電気2重層コンデンサと、各電気2重層コンデンサに並列接続された電流制御手段と、各電気2重層コンデンサの両端電圧を設定電圧と比較する電圧比較手段とを具え、該電圧比較手段からの出力により前記電流制御手段を制御して各電気2重層コンデンサの充電電圧のバランスを取ることにした。

【0007】

【作 用】

高耐圧電気2重層コンデンサ装置を構成する各々の電気2重層コンデンサに、例えば抵抗と制御トランジスタとの直列回路から成る電流制御手段を、必要に応じて並列接続する。そして、電気2重層コンデンサの両端電圧を監視していて、設定値を超えた場合にのみ前記電流制御手段を導通させてバイパス電流を制御する。このようにすると、電流制御手段に電流が流れる期間が少なくなると共に、全ての電流制御手段に流れるわけでもないので、高耐圧電気2重層コンデンサ装置全体に流れる漏れ電流が少なくなると共に、発熱量も小となり、電力を無駄に消費することがない。

【0008】

【実施例】

以下、本考案の実施例を図面に基づいて詳細に説明する。まず、電気2重層コンデンサの充電電圧の特性について説明する。図4は、直列接続した電気2重層

コンデンサにおける各充電電圧を説明する図である。図4において、31～34は電気2重層コンデンサ、6は直流電源、7はスイッチ、 $V_{31} \sim V_{34}$ は各電気2重層コンデンサの充電電圧である。

【0009】

図4（イ）のように電気2重層コンデンサ31～34を直列接続し、スイッチ7を介して直流電源6を印加すると、各電気2重層コンデンサは充電され、その両端にはそれぞれ充電電圧 $V_{31} \sim V_{34}$ が現れる。図4（ロ）は、充電電圧 $V_{31} \sim V_{34}$ の時間的变化を示したものである。充電過程を仔細に観察すると、充電が或る程度進んだ途中の電圧値までは（図4（ロ）では V_k までは）、各充電電圧に殆ど差はなく、電圧のバランスが保たれている。差が出て来るのは、その後である。

【0010】

そこで本考案では、電圧バランスが保たれている電圧範囲においては電流が流されないが、それを越えた範囲では電流が流されるようにしたバイパス回路を、各電気2重層コンデンサに並列に設ける。

【0011】

図1は、本考案の実施例にかかわる高耐圧電気2重層コンデンサ装置である。符号は図4のものに対応し、41～43は抵抗、51～53は制御トランジスタ、61～63は比較器、71～73は基準電源、81～86は分圧抵抗、 I_{32} は充電電流、 I_B はバイパス電流である。

【0012】

各電気2重層コンデンサに同様な回路が並列接続されているので、説明は電気2重層コンデンサ32の場合を例にとつて行う。抵抗42と制御トランジスタ52との直列回路は、前記した電流制御手段の具体的な1例であり、これが電気2重層コンデンサ32に並列に接続される。分圧抵抗83、84もやはり電気2重層コンデンサ32に並列接続され、電気2重層コンデンサ32の両端電圧 V_{32} を分圧する。基準電源72は、比較器62に比較の基準電圧を提供するものであり、これが充電電圧 V_{32} の設定値を決めている。比較器62の出力は、前記制御トランジスタ52に伝えられる。

【0013】

分圧抵抗 84 の両端電圧が基準電源 72 の電圧より小である内は、比較器 62 の出力は制御トランジスタ 52 をオンさせることはない。従って、バイパス電流 I_B はゼロであり、流れているのは、電気 2 重層コンデンサ 32 に直接流れ込んでいる充電電流 I_{32} である。しかし、基準電源 72 の電圧を超えると、制御トランジスタ 52 はオンされ、バイパス電流 I_B も流れ始める。充電電圧 V_{32} の値は基準電源 72 や比較器 62 等により監視され、設定値より大になろうとすると、バイパス電流 I_B が増やされて、設定値に維持される。

【0014】

基準電源 71 ~ 73 と分圧抵抗 81 ~ 86 を適宜決定して、各電気 2 重層コンデンサの充電電圧の設定値を略同じにすることにより、電圧バランスは良好に保たれ、特定のコンデンサに過大な電圧がかかるというようなことはない。

【0015】

各電気 2 重層コンデンサに並列接続されているバイパス回路には、充電電圧が或る電圧に達するまでは電流が流れない上、流れるとしても全てのバイパス回路に流れるというわけではない（流れるのは制御トランジスタがオンにされた回路のみ）。従って、バイパス電流 I_B が流れる期間が、図 3 に示す従来例に比し短いと共に、小であるので、高耐圧電気 2 重層コンデンサ装置全体に流れる漏れ電流は小となる。それに伴い、漏れ電流による発熱も少なくなり、電力を無駄に消費することもなくなる。

【0016】

なお、図 1 の実施例では、全ての電気 2 重層コンデンサに並列回路を設けているが、予め各電気 2 重層コンデンサの特性を測定し、各漏れ電流の値等が分かっている場合には、それを考慮して必要と思われる電気 2 重層コンデンサにのみ設けてもよい。

【0017】

【考案の効果】

以上述べた如く、本考案の高耐圧電気 2 重層コンデンサ装置によれば、電圧バランスを取るために各電気 2 重層コンデンサに並列接続した電流制御手段に電流

が流れる期間が少なくなると共に、常時全ての電流制御手段に電流が流れるということはなくなる。そのため、高耐圧電気2重層コンデンサ装置全体に流れる漏れ電流が少なくなると共に、発熱量も小となり、電力を無駄に消費することがない。